

愛知・下津城跡

- 1 所在地 愛知県稲沢市下津町高戸
- 2 調査期間 一九八〇年(昭55)二月～三月
- 3 発掘機関 稲沢市教育委員会
- 4 発掘担当者 岩野見司
- 5 遺跡の種類 城跡
- 6 遺跡の時代 鎌倉～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下津城の起源は不明であるが、鎌倉時代から守護所があった可能性をもち、応永七年(一四〇〇)着任と推定される斯波氏の、尾張守護所が置かれていた。文明八年(一四七六)斯波義廉と織田敏広が、斯波義敏方の織田敏定に城下を焼かれ、退城して廃城となったといわれる。

発掘調査は、県道拡張工事に伴い、愛知県一宮土木事務所より委託を受けて実施した。その結果、堀跡と考えられる大溝跡、井戸跡、土器溜り、土壇群等の遺構が検出され、木簡、漆器、下駄、杓子、



曲物、陽物、中国陶磁(二彩、天目茶碗、青磁、白磁、染付)、土師質土器、古瀬戸、古常滑、瓦質土器、石硯、砥石、貨銭、飾金具、小柄、人骨等の遺物が出土した。

木簡が出土した大溝跡は、片岸に護岸用と考えられる二列の杭列を伴い、一方の杭列には、直径三～四cmの竹を二～三本横にさし渡した状態になっていた。

8 木簡の釈文・内容

出土した木簡は四点で、他に文字がない木簡様の木片一点がある。

- (1) 「☐」は志りの竹 六十本内」 152×13×1 033
- (2) 「☐」は志りの竹 ☐ × (105)×17×1 039
- (3) 「中☐」 95×31×3 021
- (4) ☐宗☐ ☐ × (28)×8×1 081



9 関係文献

岩野見司・北條献示
『下津城跡発掘調査概要報告書(1)』
(稲沢市教育委員会)

一九八〇年
(北條献示)